

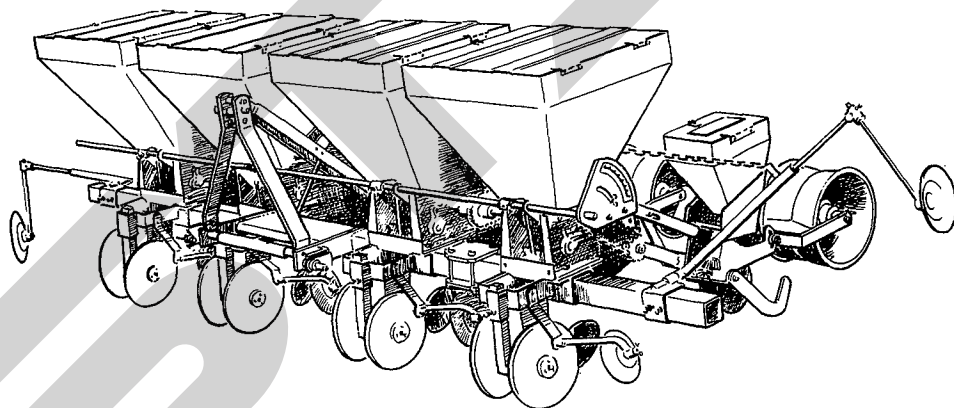
STAR



ジョブランナ

製品コード 33035・33036

MODEL-MCP2010・4010



取扱説明書 部品表

“必読” 機械の使用前には必ず読んでください。

STAR FARM MACHINERY MFG.CO., LTD.

目 次

1. ご購入の皆様へ	1
2. 安全作業のために	2
3. 仕 様	3
4. 各部の機構と調節	4
1) 畦巾の調節	4
2) マーカ調節	5
3) 施肥深さの調節	8
4) 施肥量の調節	9
5) 散布曲線の見方	9
6) 播種深さの調節	9
7) 株間調節	10
8) 播種粒数と株間の決め方	10
9) シードプレートの選択	11
10) シードプレートの交換要領	11
11) シードプレート傾斜角度の調節	11
5. 作業前の準備	11
6. 作業前の本機の点検	13
7. 作業方法	13
8. 保守管理	14
9. オプション	15
(1) コーン用	15
(2) ソルゴー用	15
(3) 大豆、小豆用	17

1. ご購入の皆様へ

スターコーンプランタをご購入いただき誠にありがとうございます。本機は、施肥をしながらとうもろこしの種子を点播していく機械です。

とうもろこし以外にも、オプションを準備すると、ソルゴの条播、大豆、小豆の2粒点播などにご利用いただけます。

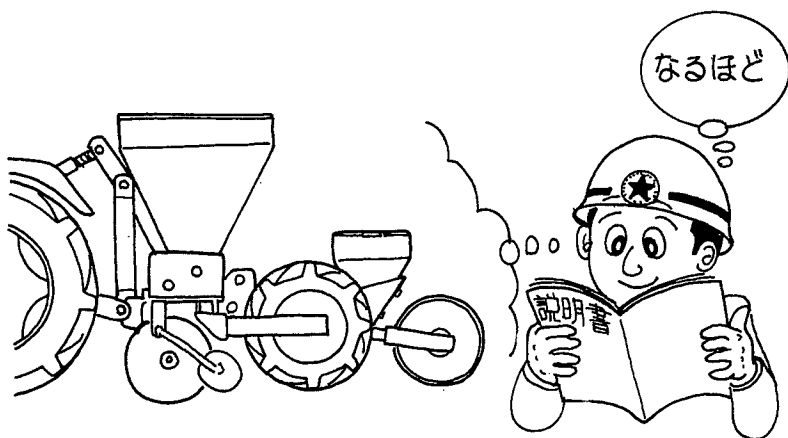
この取扱説明書は、スターコーンプランタの正しい使い方について説明してあります。よくお読みいただいたうえ、ご使用ください。

なお、とうもろこしの収穫作業には、スターコーンハーベスタも合わせてご利用ください。

本機は、工場出荷にあたり、入念に組立・調整・検査をしておりますが、本来の性能が発揮できるかどうかは、その取扱操作と、作業時の調整作業後の清掃、点検などの良し悪しにかかっていますから、この取扱説明書をよくお読みいただき、いつまでも、すぐれた性能を発揮されることを希望いたします。

2. 安全作業のために

1) 取扱説明書の熟読



- 取扱説明書はよく読んで理解すること。
- 機械の取扱いは、子供や未熟な者には、使用させないこと。

2) 体調や服装は

- 過労や病気ときは、作業をしない、させないこと。
- 衣服や手拭・手袋が機械に巻込まれない服装で作業すること。
- 作業にはヘルメットをかぶること。



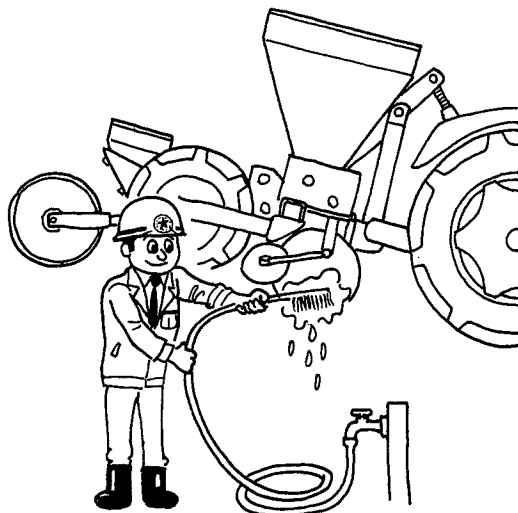
3) 機械操作は



- 発進時や運転中は、たえず周囲を確認すること。特に子供に注意すること。
- 圃場の状態をたえず確認し、安全作業に心がけること。
- トラクタから降りたり、離れたりする時はP・T・Oおよびエンジンを停止させ駐車ブレーキをかけること。

4) 点検・調整・清掃は

- 各部の点検・調整・給油・清掃などをおこなうとき、トラクタのエンジン停止させてからおこなうこと。
- 作業のあと車庫に入れる前によごれた機械を清掃、点検のこと。
- 作業の前後には点検・調整・給油・整備を十分おこなうこと。



3. 仕 様

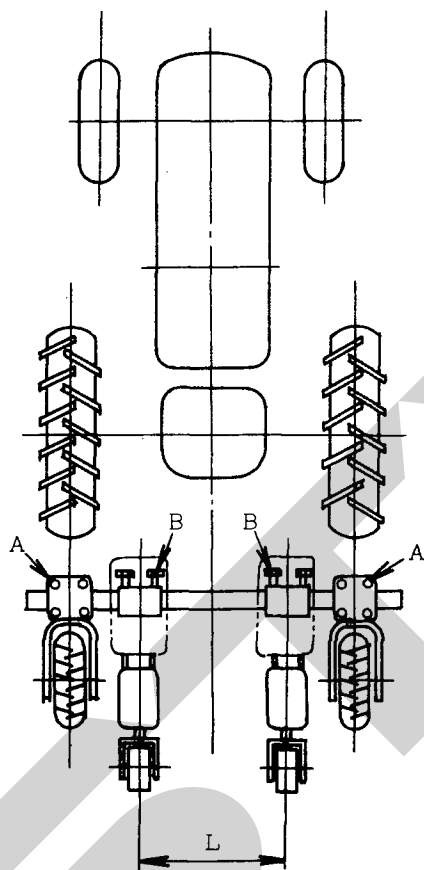
コ	ー	ド	№	3 3 0 3 5	3 3 0 3 6						
型	式	M C P 2 0 1 0	M C P 4 0 1 0								
名	称	スターコーンプランタ									
規	格	2 畦	4 畦								
適	用	ト	ラ	ク	タ						
		2 5 ~ 6 0 P S	3 0 ~ 8 0 P S								
装	着	方	法	3 点リンク直装式							
カテゴリー I・II											
機	体	寸	法	本	マ	マ					
				体	ー	ー					
				付	カ	折					
							た	た	み	時	
				1 4 6 0 mm	1 4 6 0 mm	1 4 6 0 mm	1 4 6 0 mm				
				1 7 6 5 mm	3 0 0 5 mm	3 7 8 0 ~ 5 3 3 0 mm	3 0 0 5 mm				
				1 0 3 0 mm	1 0 3 0 mm	1 0 3 0 mm	1 1 1 5 ~ 1 4 6 0 mm				
重	量	2 2 5 Kg	4 0 0 Kg								
駆	動	方	法	車 輪 駆 動							
ホ	ッ	パ	容	肥	6 0 l × 2 = 1 2 0 l	6 0 l × 4 = 2 4 0 l					
				種	7 l × 2 = 1 4 l	7 l × 4 = 2 8 l					
適	用	種	子	コーン類、大豆、小豆類、ソルゴー類							
適	用	肥	料	粒状肥料							
条	間	6 0 0 ~ 8 0 0 mm (無段階)									
株	間	1 粒播(コーン類)	シードプレート使用	1 7 0、1 9 5、2 1 5、2 4 5、2 8 0、3 0 5、3 5 0 mm							
		2 粒播(大豆、小豆)	シードプレート使用	1 5 0、1 7 0、1 9 0、2 2 0、2 5 0、2 7 0、3 1 0、3 4 0、3 9 0 mm							
作	業	速	度	3 ~ 5 Km/hr							
作	業	能	力	2 5 ~ 4 2 a/hr	5 0 ~ 8 4 a/hr						
				条 間 7 0 0 mm のとき (圃場効率 6 0 %)							
オ	プ	シ	ョ	ン							
				①	シードプレート; 10 (10mm 穴、板厚 6mm) コーン小粒種子用						
				②	シードプレート; 15 (15mm 穴、板厚 6mm) コーン大粒種子用						
				③	シードプレート; 11F (12mm 穴、板厚 4mm) コーン平形種子用						
				④	シードプレート; 12F (13mm 穴、板厚 4mm) コーン平形種子用						
				⑤	シードプレート; 9 (9mm 穴、板厚 6mm) ソルゴー用						
				⑥	スジマキアタッチ ソルゴー等の条播用						
				⑦	シードプレート; 9W (9mm 穴、2粒播、板厚 6mm) 小粒大豆、小豆用						
				⑧	シードプレート; 11W (11mm 穴、2粒播、板厚 6mm) 大粒大豆用						

4. 各部の機構と調節

1) 畦巾の調節

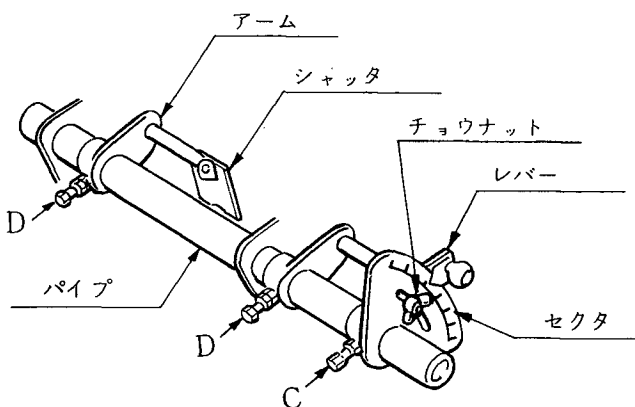
本機は60～80cmまで無段階に畦巾を調節できますが、工場出荷時には70cmにしてあります。調節方法は次の通りです。

- ① タイヤの固定ボルトAをゆるめて、トラクタ後車輪のわだちに、タイヤが入るようにしてください。トラクタタイヤ跡を通すことにより、スリップが少なく播種精度が良くなります。



第1図

- ② 第1図の固定ボルトBをゆるめ第2図のパイプ上の各部品の締付ボルトC、Dをゆるめ本機中心から振りわけてユニットを移動し、希望する畦巾Lになりますようにします。この時アームは、いっしょについて動かないので、シャッターがこじられないようにアームも時々移動させてください。



第2図

- ③ 第2図のレバーをちょうナットでセクタに固定し、ボルトCを締めてください。
- ④ 次にレバーをセクタの目盛「10」に合わせ、各ユニットのシャッターを全開にして(シャッターの下づらと肥料線出し窓の上づらを一致させて)締付ボルトDでアームを固定してください。

2) マーカ調節

① MCP2010

MCP2010にはマーカがついていません。前回通ったトラクタ後輪跡と前輪の離れ具合(X)を見ながら作業します。(第3図)

このときトラクタ前輪を通す位置は次の計算式で求められます。

$$X = 2L - \frac{W + w}{2}$$

X : 前回通ったトラクタ後輪跡から、次回に通すトラクタ前輪までの距離(マイナスの場合は内側に入る。)

W : トラクタ後輪トレッド

w : トラクタ前輪トレッド

L : 畦巾

(例題1) トラクタ前輪トレッド130cm、後輪トレッド140cm、畦巾60cmとした時のトラクタ前輪を通す位置を求めます。

$$\begin{aligned} X &= 2 \times 60 - \frac{140 + 130}{2} \\ &= -15 \end{aligned}$$

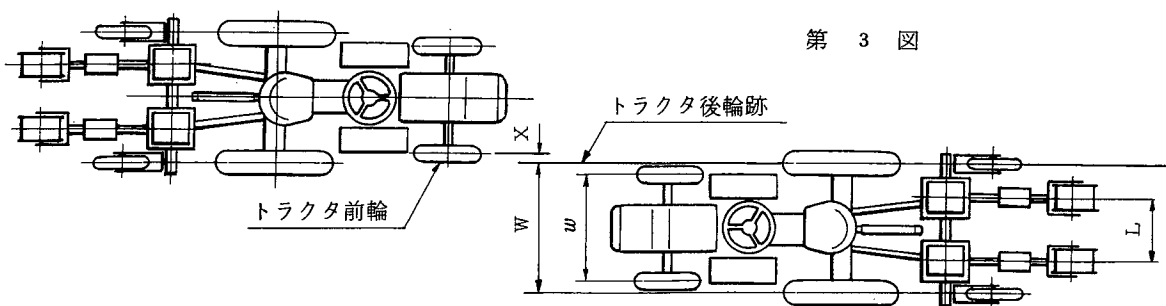
答 前回通ったタイヤ跡よりも15cm内側にトラクタ前輪を通す。

(例題2) 上記のトラクタで畦巾80cmとした時はどうか。

$$\begin{aligned} X &= 2 \times 80 - \frac{140 + 130}{2} \\ &= 25 \end{aligned}$$

答 前回通ったタイヤ跡の外側25cmのところをトラクタ前輪を通す。

作業が慣れるまでトラクタバンパー付近にたる木などを横に固定し、先端に針金などをさげ(トラクタ前輪から針金までの距離を上記Xの寸法とする。)これにタイヤ跡を合わせて作業するとより確実に作業できます。



② MCP 4010

MCP 4010にはオートチェンジャマーカをつけています。3点リンクの昇降により自動的に左右のマーカが切りかわります。

MCP 4010では前回つけたマーカ跡に前輪タイヤを合わせながら作業します。(第4図)

この時の計算式は次式の通りとなります。

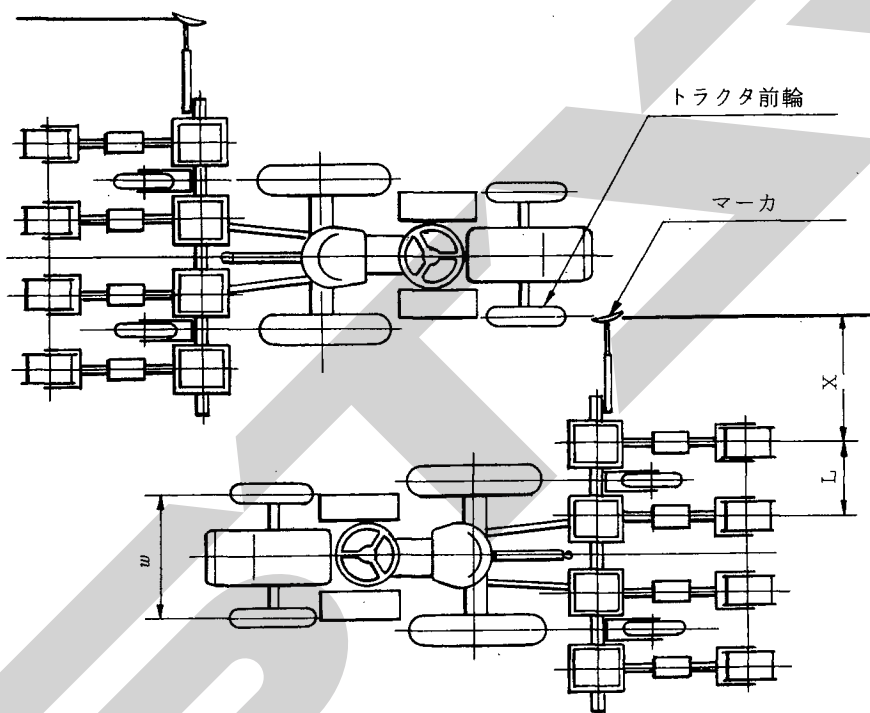
$$X = \frac{5 \times L - w}{2}$$

X : 最外側ユニットからマーカまでの距離

w : トラクタ前輪トレッド

L = 畦 巾

計算によりXを求め固定ボルトをゆるめてマーカを伸縮し調節します。(第8図)



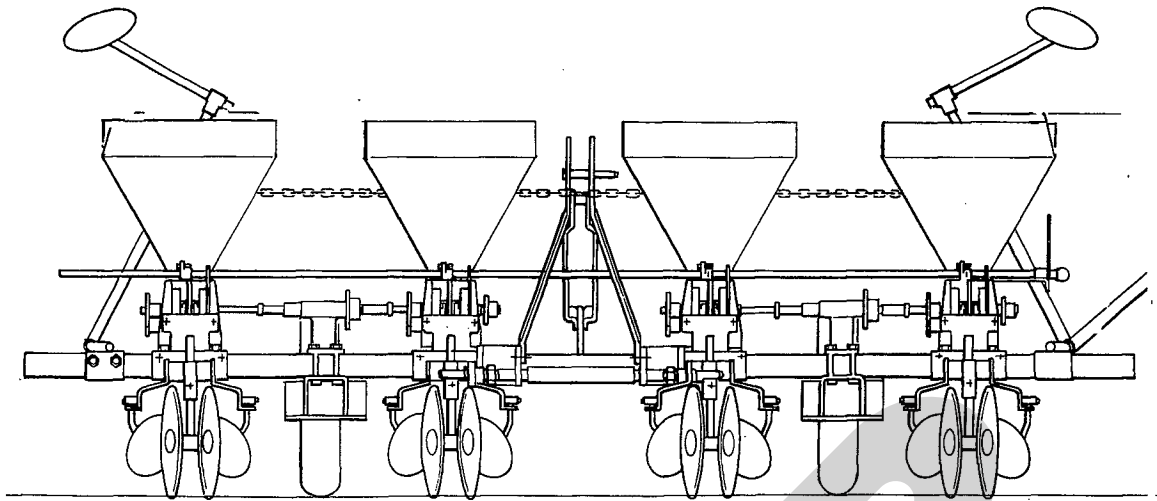
第 4 図

③ マーカチェーンのかけかた

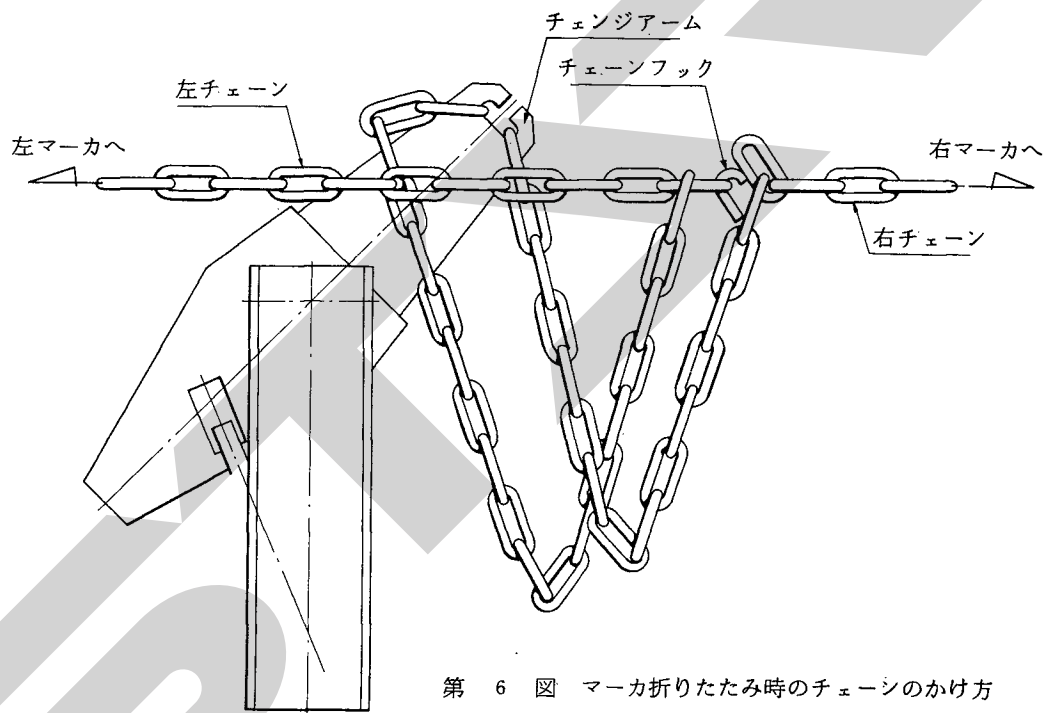
(1) 移動中(道路走行中)

移動中はマーカを折りたたみ左右のチェーン双方をぴんとはり直接フックにかけマーカを固定します。チェンジアームの破損を防ぐため必ずこのチェーンフックを使ってください。(第5図、第6図)

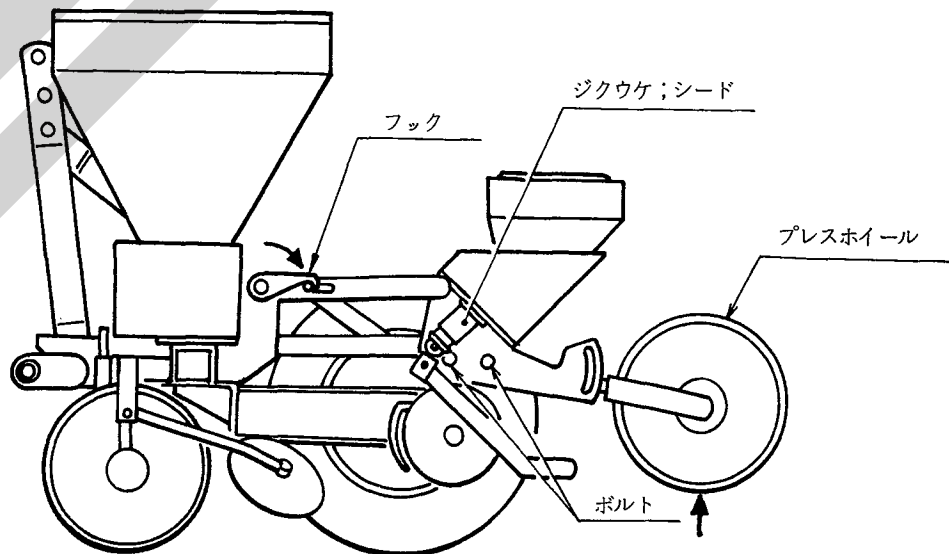
なお、移動中はプレスホイールを持ち上げフックで播種部を固定してください。(第7図)



第 5 図 移動中のマーカ姿勢



第 6 図 マーカ折りたたみ時のチェーンのかけ方

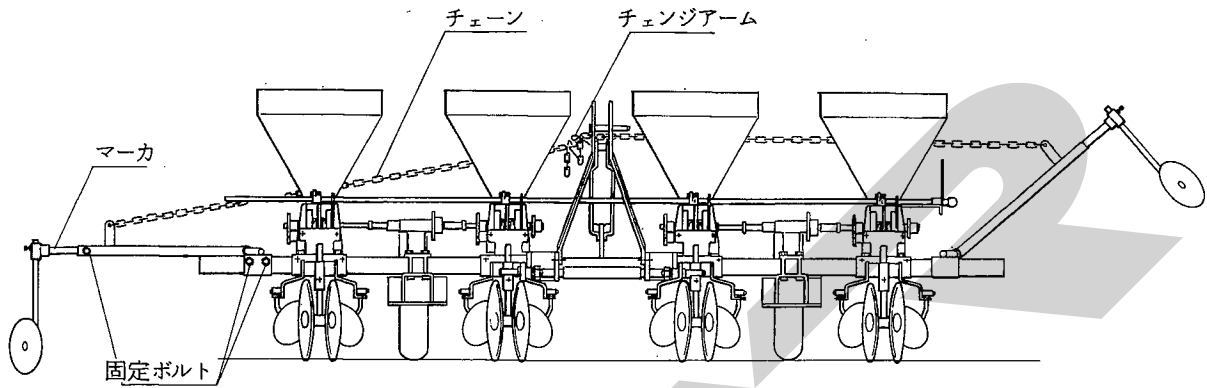


第 7 図

(2) 作業中

チェンジアームが傾いている方のマーカを下りきるまでおろしチェーンをぴんとはりチェンジアームにチェーンを掛けてください。

反対側も同様にかけてください。(第8図)

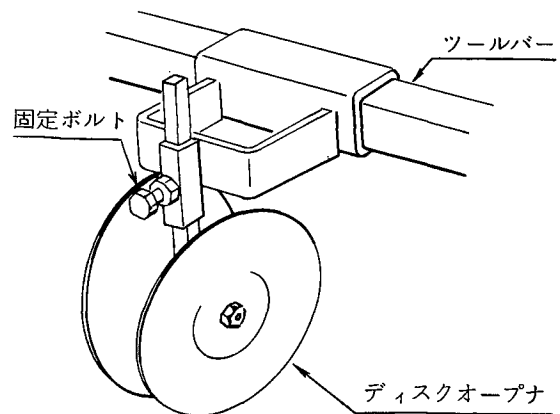


第8図 作業中のマーカ姿勢

3) 施肥深さの調節

ディスクオープナの固定ボルトをゆるめ、オープナセット位置を変えることにより3段階に調節できます。

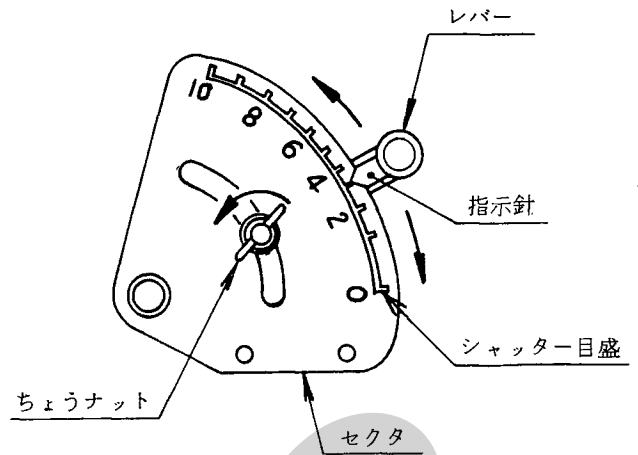
又トップリンクを短かくしますと、施肥溝は深くなります。(第9図)



第9図

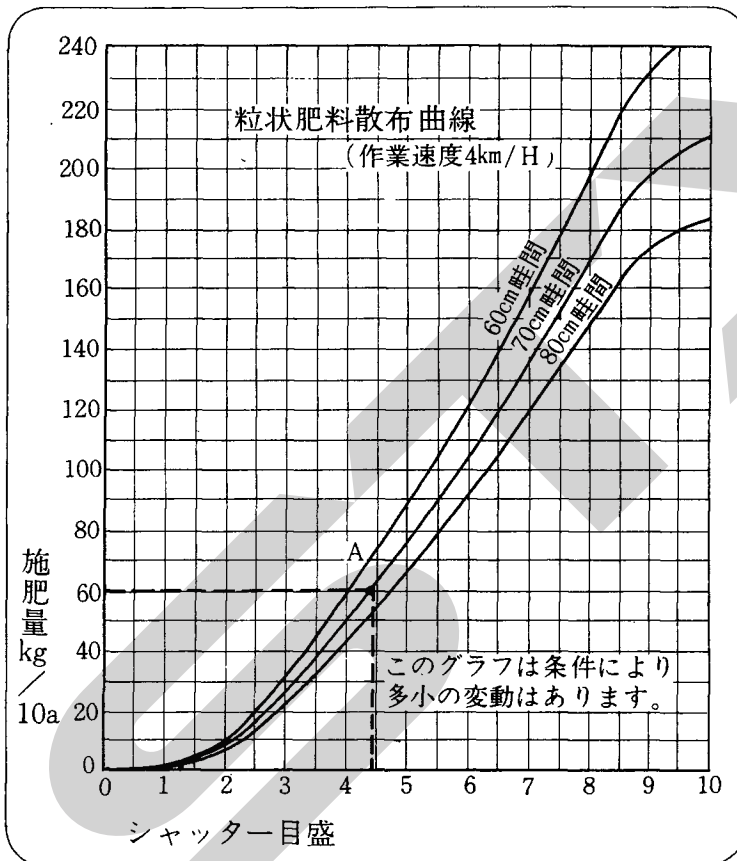
4) 施肥量の調節

粒状肥料散布曲線より希望するシャッター目盛を求めます。次に第10図のちょうナットをゆるめ、レバーを動かし指示針を希望するシャッター目盛に合わせて、ちょうナットを締め直してください。



第10図

5) 散布曲線の見方



例題

畦間70cmで60kg/10a施肥したい。シャッター目盛をいくらにすれば良いか。

70cm畦間曲線と60kgの線の交点Aよりシャッター目盛を求めます。

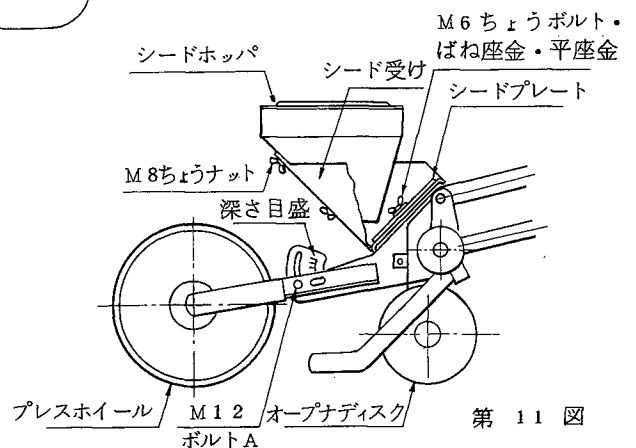
答 シャッター目盛 4.4

但し作業速度、肥料の種類により変わりますから、このグラフは目安として考えてください。

6) 播種深さの調節

第11図のボルトA (M12)をゆるめ、プレスホイールの位置を変える事で播種深さの調節ができます。

この時調節は深さ目盛を参考にしてください。1目盛動かすと2cm程播種深さが増減します。



第11図

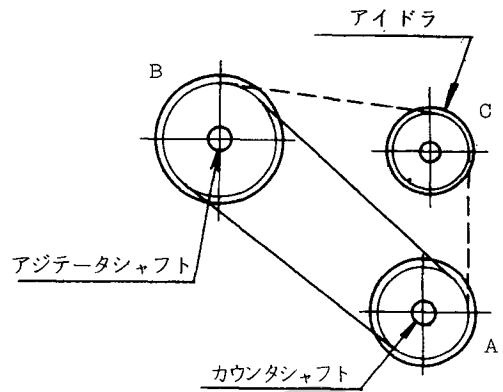
7) 株間調節

標準品のシードプレート 11、12、13、14 及びオプションのシードプレート 10、15、11 F、12 F を使用する場合、株間の調節は第 12 図の A・B のスプロケットの交換 (MCP 4010 では 2ヶ所) により第 1 表のようになります。

オプションの大豆、小豆用シードプレート 9 W、11 W… 2粒播… を使用する場合は、17、18 ページを参照ください。

出荷時には、A = 8 歯、B = 10 歯、C = 7 歯の組合わせになっています。(もう 1 コの 7 歯のスプロケットは、右のユニットの同じ C 軸に止めてあります。)

チェーンの掛け方は、第 12 図の A、B、C に掛ける場合と、B、C だけに掛ける場合の 2 通りにできます。チェーンを適正長さに脱着し遊びの少ない方で使用しますが、チェーンが伸びてきた場合とか、1 コマまで詰められない場合は、チェーンに若干の遊びを持たせテンションで張ってください。



第 12 図

B \ A	7 歯	8 歯	10 歯
7 歯	24.5 cm	28 cm	35 cm
8 歯	21.5 cm		30.5 cm
10 歯	17 cm	19.5 cm	

第 1 表

8) 播種粒数と株間の決め方

畦巾と株間を変えると、播種粒数は第 2 表のようになります。

畦巾 \ 株間	60 cm	65 cm	70 cm	75 cm	80 cm
17 cm	9,800 粒/10a	9,000 粒/10a	8,400 粒/10a	7,800 粒/10a	7,400 粒/10a
19.5	8,500	7,900	7,300	6,800	6,400
21.5	7,800	7,200	6,600	6,200	5,800
24.5	6,800	6,300	5,800	5,400	5,100
28	6,000	5,500	5,100	4,800	4,500
30.5	5,500	5,000	4,700	4,400	4,100
35	4,800	4,400	4,100	3,800	3,600

(1株1本立て、10アール当り)

第 2 表

計算式

$$y = \frac{10^7}{a \times b}$$

y : 株間 (cm)

a : 畦巾 (cm)

b : 播種粒数 (粒/10a)

最適な栽植本数は、収穫時まで保持されるべき本数であり、圃場発芽率、虫害、鳥害等によるロスを考慮すると、播種粒数は最適栽植本数より約 20% 多めになります。

(例題) 最適な栽植本数 6,000本 / 10アールのデントコーンを畦巾 65cm で 1株 1粒まきをするとき、株間はどの位にしたら良いか、又その時のスプロケットの組合わせはどうか。

$$6,000 \times 1.2 = 7,200 \dots\dots \text{播種粒数}$$

$$y = \frac{10^7}{a \times b} = \frac{10,000,000}{65 \times 7,200} = 21.4 \text{ cm}$$

第 1 表から

A …… 8 歯	B …… 10 歯のとき	19.5 cm	}	が得られる。
A …… 7 歯	B …… 8 歯のとき	21.5 cm		

9) シードプレートの選択

本機には、ユニットに組込まれている「12」のほかに「11」「13」「14」のシードプレートがついております。(シードプレート裏面に刻印されている数字が穴の大きさを表わします。)

- ① 最初、種子をシードプレートの穴に入れてみて、穴にひっかからず、1粒が完全に入るシードプレートを探します。
- ② 次に本機ユニットに①で選んだシードプレートを取付けて、ホッパに種子を入れ、又、ホッパ下にある受皿(シード受け)に一握の種子を入れ、タイヤをゆっくり手で回してみ(毎分40回転くらい)、種子が安定して落ちるかどうか、確認してください。(トラクタ3点に本機を取付けて、油圧をあげてタイヤを回してください。)

10) シードプレートの交換要領

- ① M8 ちょうナットを抜きシードホッパを外します。
- ② M6 ちょうボルトの座金を抜き、シードプレートを取り外してください。
- ③ 希望するシードプレートを数字が裏側になるようにして入れ平座金、ばね座金、ちょうボルトの順で組み立ててください。(第11図)

11) シードプレート傾斜角度の調節

第7図のボルトを抜き、シュートを外すとジクウケ；シードを固定しているボルトが見えます。このボルトをゆるめて、播種部全体を前後に約5度ずつ動かすことができます。

シードプレートの傾斜角度は一般には現状のまま問題ありませんが、圃場の凹凸などでシードプレートの穴に入った種子がこぼれやすく、どうしても、欠株が出やすい時には、傾斜をゆるくしてください。逆に、シードプレート上に種子が多く乗ってくる場合は傾斜をきつく調節してください。

5. 作業前の準備

- 1) とうもろこしは、適度の湿りのある肥沃土壌が適しており、堆肥及び金肥を十分に施すことにより、多収穫が得られます。又、多量のカルシウム(石灰)を吸収するため、石灰の十分な施用も必要です。(最適 PH 6.0 ~ 6.5)

2) 過湿地（水田転換畑など）では、生育不良となるので排水を良くすることも必要です。

3) イタリアンの跡地などは、ロータリ耕では、播種しにくく、地力増強と多収のためにも、プラウ耕による天地返しの後、ディスクハローやスパイクツースハローを使うことが望まれます。

4) 播種前の圃場の整地、均平、鎮圧を入念におこなってください。発芽が安定するばかりでなく、あとの管理作業（スプレーヤによる防除）や、収穫作業（コーンハーベスタ）においても、仕事が楽になります。

ロータリ耕の場合は土が膨軟になり易く、K型ローラなどで十分な鎮圧をし、土を落着かせる事も必要です。ロータリ耕だけのときは、均平板で鎮圧効果があがるようにし、整地後3～4日おいた方が土の落着きがです。

5) 複条施肥について

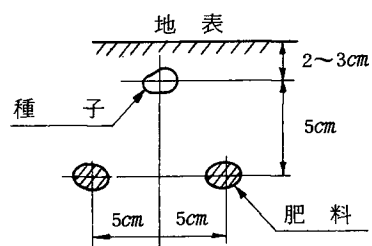
最近はや収量をあげるため、品種の改良とともに施肥量もふえてきています。

それに伴い、肥料やけ（発芽障害）も多くなっています。本機では、種子の両側に半分ずつの肥料を落とす方式、つまり複条施肥方式を採用し、できる限り肥料やけを起さないようにしています。しかし、より安全に発芽～生育させるためには、

- 肥料の選定……塩安、硫安の多肥は肥料やけを起し易く、さけた方が賢明でしょう。
- 標準施肥量……堆厩肥 5～7 トン / 10 アール、チッソ 15 Kg、リンサン 18 Kg、カリ 13 Kg（10 アール当り各分量）、チッソは基肥で 8 Kg 以内（分量）にとどめ、残りは本葉 5～6 葉の頃追肥するか、チッソの半量を整地時にライムソーワやブロードカスタで全層施肥し、残りを播種と同時に施肥するなどの配慮が必要です。
- 施肥位置……一般にとうもろこしの場合、種子下 5 cm で種子の両側 5 cm ずつ位が適当といわれています。（第 13 図）

種子直下には肥料を入れず、必ず種子とは離れた位置に施用することが大切なのです。

このほか、低温、多湿時にも出芽までの日数がかかり、肥料やけが出易くなります。



第 13 図

6) 播種は、晩霜の心配がない程度に早めに播くほど多収になります。また播種深さは 2～3 cm が良く、1 cm 以内では欠株を生じ、4 cm 以上では発芽が遅れます。

7) 鳥害を防ぐためには早播きにつとめ、光明丹やアンレスなどの忌避剤を粉衣して、若干深目に播種すると効果があります。（乾燥時も若干深目にしてください。）

- 8) 雨上りの軟弱な状態での播種作業は、播種精度をおとしますのでさけてください。
- 9) 肥料は粒状肥料が適しています。
- 10) 種子はゴミなどを除去し、サイズの揃ったものを準備し、シードプレートも種子サイズに合わせて選択しておきます。
- 11) 草地跡は、虫害による被害が出易いため、秋耕しが効果的です。
- 12) 栽植密度は地域や品種によって異なりますので農協や普及所に相談しましょう。粗植では多収が望めず、密植では登熟が遅れ倒伏しやすくなります。
- 13) 畦巾は後の管理作業（スプレーヤなど）及び収穫作業（コーンハーベスタなど）に支障がない範囲で決めてください。
- 14) 種子のサイズは F_1 と呼ばれる一代交配品種では大粒、中粒、小粒、丸型、平型などにランクわけされた種子が販売されるようになってきました。この様な種子は大きさが揃っており機械植に適しています。

6. 作業前の本機の点検

- 1) 各軸受部のグリスニップルに良質グリスを入れてください。
- 2) ローラチェーンはモーター油を塗布してください。
- 3) 肥料及び種子は圃場についてからホップに入れてください。シードホップ下のシード受けにも、一握りの種子を入れてください。
- 4) トラクタへの装着にあたっては、チェックチェーン又はスタビライザをつけ、作業中の横振れ防止をはかってください。

7. 作業方法

- 1) 播種作業の前に必ず、試運転を行ない目的とする株間、播種深さ、施肥深さ、播種施肥量になっているか確認の上作業を開始してください。

2) 作業は、同じスピードでゆらくり(4 Km/日位)おこなってください。

速い作業は、欠株が多くなったりして、後日補植等に手間取るようになります。

3) 本機は播種作業中の状態では後退しないでください。後退する時は必ず油圧で本機を揚げておこなってください。

又、作業に入る場合トラクタ油圧はゆっくりおろし、土が種子や肥料落下口につまらないようにしてください。

4) 施肥、播種が各条ユニットごとつまったりしていないか、均一に落下しているかどうか、時々確認してください。

5) 播種後はK型ローラで鎮圧するとより発芽は良くなり除草剤の効果も良くなります。

8. 保 守 管 理

1) 作業後は、残った肥料、種子はホッパから排出しておいてください。

肥料は、ホッパ底部のシャッターを抜くことにより、シュートから排出できます。

本機をトラクタ3点で持揚げ、シュートの下にビニール袋などで受け、残った肥料を回収してください。

種子は、ホッパのちょうナット(第11図)をはずし、ホッパの出口を手でおさえてホッパをはずし、中の種子を袋等にあけてください。受皿に残ったものは側面のシャッターをあけ取出してください。

2) 肥料ホッパは、肥料を抜いてから水洗いして、付着した肥料は完全に取除いておいてください。水切り後、軸類、アジテータ、等は充分に廃油等をぬって保管しておきましょう。

3) 各部の土、ゴミをおとし清掃してください。

4) ローラチェーンは汚れを拭き取り、モービル油等を充分にぬっておきます。

5) グリスニップルにはグリスを圧入し、土やゴミが軸受部に残らないようにします。

6) 格納場所は湿気がなく、通風の良い所を選んでください。

屋外放置は機械の寿命が著しく短くなります。

9. オプション

本機には次のオプションを用意してあります。

(1) コーン用

① シードプレート ; 1 0

丸形 (R 形) …第 1 4 図…の小粒種子で、標準品のシードプレート ; 1 1 でも、穴が大きすぎ、2 粒まきになるような場合に使用ください。

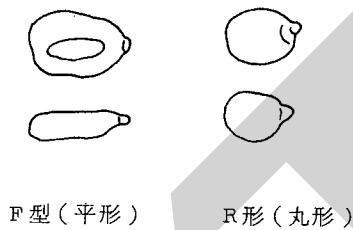
② シードプレート ; 1 5

大粒種子で、標準品のシードプレート ; 1 4 でも、穴が小さく、入りにくく、欠株が出やすい場合に使用ください。

③ シードプレート ; 1 1 F

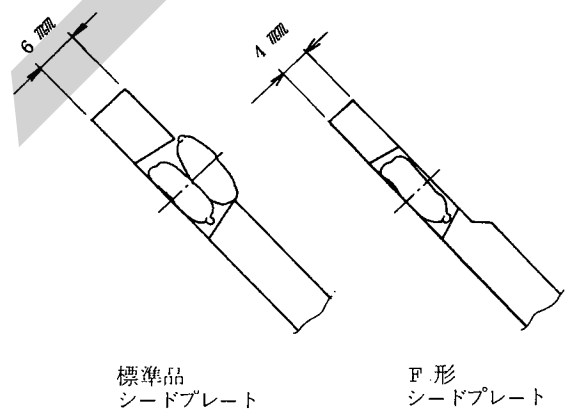
④ シードプレート ; 1 2 F

平形 (F 形) …第 1 4 図…の小粒種子、中粒種子で標準品のシードプレートでは、第 1 5 図のように 2 粒重なり、2 粒播きになる場合に、この F 形シードプレートを使用ください。なお、この F 形シードプレートの場合に限り、裏面の刻印の数字よりも 1 mm 穴が大きくなっています。(1 1 F → 1 2 mm 穴、1 2 F → 1 3 mm 穴)



種子形状

第 1 4 図



第 1 5 図

(2) ソルゴー用

⑤ シードプレート ; 9

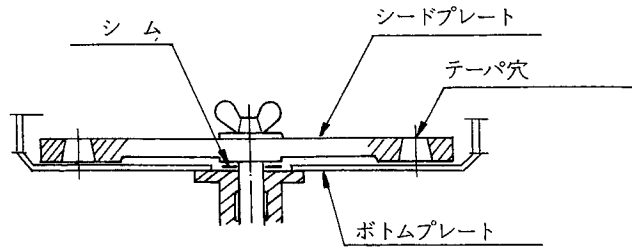
⑥ スジマキアタッチ (M 8 × 1 5 ちょうボルト付)

ソルゴーは一般には、バラまきにする事も有りますが、コーンハーベスタなどの利用を考えると、スジまきのほうが望まれます。

1) 本機への取付方法

シードプレート ; 9 は、標準品のシードプレートと同じようにテーパ穴の広い方を下側にして取付けてください (第 1 6 図)

シードプレートとボトムプレートのスキマは、現状で約 1 mm あります。シードプレートとボトムプレートの間に種子がはさまる場合は、シムを減らして、スキマの調節をしてください。(シム 1 枚で 0. 5 mm 変わります。) ……第 1 6 図



第 16 図

スジマキアタッチは、シュートの下側からつまみ、M8×15 ちょうボルトでシュートに固定してください。タップまでの長さの短い方を下側にして、取付けてください。

(逆の場合は種子は出ません)……第 17 図

2) ソルゴの播種量

一般にはバラまきの場合 3～4 Kg / 10a

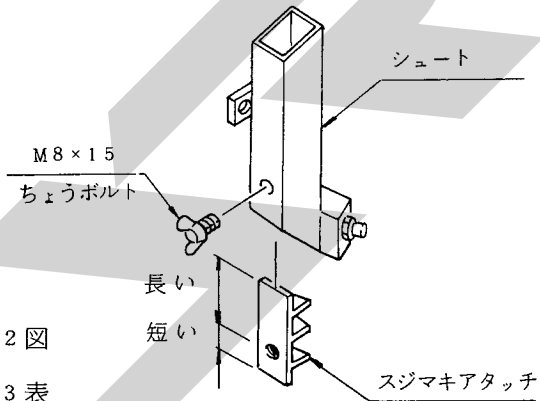
スジまきの場合、1.5～3 Kg / 10a と

言われていますが、品種によっても、地域によつ

ても若干異っています。替スプロケット(第 12 図

参照) 及び条間を変えた場合の播種量はほぼ第 3 表

のようになります。



第 17 図

A	B	シードプレート ; 9 の時					シードプレート ; 10 の時					
		60 ^{cm}	65 ^{cm}	70 ^{cm}	75 ^{cm}	80 ^{cm}	60 ^{cm}	65 ^{cm}	70 ^{cm}	75 ^{cm}	80 ^{cm}	
		Kg/10a	Kg/10a	Kg/10a	Kg/10a	Kg/10a	Kg/10a	Kg/10a	Kg/10a	Kg/10a	Kg/10a	Kg/10a
7 歯	10 歯	2.8	2.6	2.4	2.2	2.1	3.3	3.0	2.8	2.6	2.5	
8	10	2.4	2.3	2.1	2.0	1.8	2.8	2.6	2.4	2.2	2.1	
7	8	2.2	2.0	1.9	1.8	1.7	2.6	2.4	2.2	2.1	1.9	
7	7	2.0	1.8	1.7	1.6	1.5	2.3	2.2	2.0	1.9	1.8	
8	7	1.7	1.6	1.5	1.4	1.3	2.0	1.8	1.7	1.6	1.5	
10	8	1.5	1.4	1.3	1.2	1.1	1.7	1.6	1.5	1.4	1.3	
10	7	1.4	1.3	1.2	1.1	1.0	1.6	1.5	1.4	1.3	1.2	

(上表中 A はカウンタシャフト、B はアジテータシャフトをあらわしています。第 12 図参照) 第 3 表

(3) 大豆、小豆用

⑦ シードプレート ; 9 W

小粒大豆、小豆の2粒まきをする場合に使用ください。

小粒大豆……十勝長葉、鈴成、北見白、ヒゴムスメ、ライデン、ワセシロメなど
小 豆……大納言、小豆など

⑧ シードプレート ; 11 W

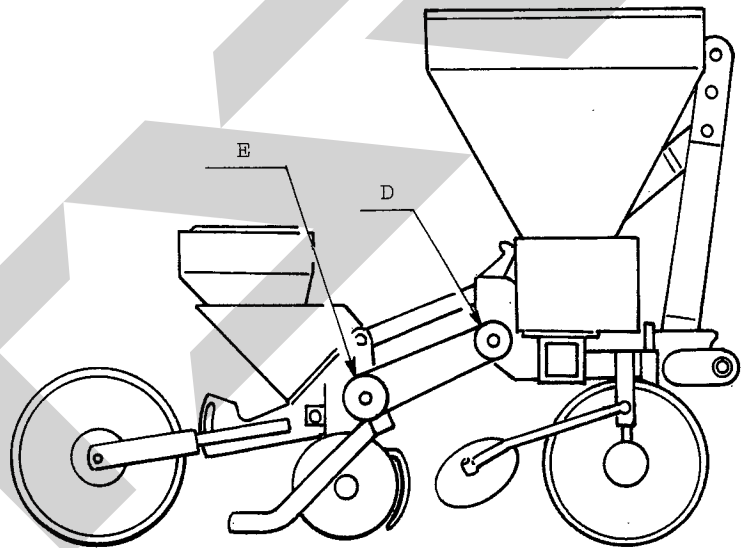
大粒大豆の2粒まきをする場合に使用ください。

大粒大豆……トヨスズ、ホウライ、オシマシロメ、カリカチ、シロタエ、エンレイ、
青大豆など

1) 株間調節

株間の調節は第12図のA、
Bの sprocket の交換と第
18図のD、Eの sprocket
の入換え (MCP2010
では2ヶ所、MCP4010
では4ヶ所) によって第4表
のようになります。

(出荷時には、D=8歯、E
=12歯の組合せになって
います。)



		D = 12 歯、E = 8 歯			D = 8 歯、E = 12 歯		
B \ A	7 歯	8 歯	10 歯	7 歯	8 歯	10 歯	
7 歯	22 cm	25 cm	31 cm	(49 cm)	(56 cm)	(70 cm)	
8 歯	19 cm		27 cm	(43 cm)		(61 cm)	
10 歯	15 cm	17 cm		34 cm	39 cm		

左表中、()内は、実用上
使用頻度の少ない株間ですが、
sprocket の交換によって得
られるので参考までに記載して
ます。

第4表

2) 播種粒数と株間

株間 \ 畦巾	60cm	65cm	70cm	75cm	80cm
15cm	粒/10a 22,200	粒/10a 20,500	粒/10a 19,000	粒/10a 17,800	粒/10a 16,700
17cm	19,600	18,100	16,800	15,700	14,700
19cm	17,500	16,200	15,000	14,000	13,200
22cm	15,200	14,000	13,000	12,100	11,400
25cm	13,300	12,300	11,400	10,700	10,000
27cm	12,300	11,400	10,600	9,900	9,300
31cm	10,800	9,900	9,200	8,600	8,100
34cm	9,800	9,000	8,400	7,800	7,400
39cm	8,500	7,900	7,300	6,800	6,400
(43cm)	7,800	7,200	6,600	6,200	5,800
(49cm)	6,800	6,300	5,800	5,400	5,100
(56cm)	6,000	5,500	5,100	4,800	4,500
(61cm)	5,500	5,000	4,700	4,400	4,100
(70cm)	4,800	4,400	4,100	3,800	3,600

計 算 式

$$y = 2 \times \frac{10^7}{a \times b}$$

y : 株間 (cm)

a : 畦巾 (cm)

b : 播種粒数 (粒/10a)

第 5 表

(1 株 2 本立て、 10 アール当り)

2 粒播のシードプレートを使った場合、畦巾と株間を変えることにより、10アール当り播種粒数は第 5 表のようになります。

SFAA

SFAA

SFAA

コード	33035・33036
調整	S-820120A



本社・営業本部 066 千歳市上長都1061番地2
 01232-6-1121
 札幌事務所 062 札幌市豊平区豊平2条7丁目110-45
 営業1部 011-811-5131
 東京事務所 110 東京都台東区東上野3丁目39番7号
 営業2部 マルヤビル内
 輸出部 03-833-0191
 千歳商品管理センター 066 千歳市上長都1061番地2
 01232-6-1121
 伊達商品管理センター 052 伊達市弄月町78-1
 0142-23-2111
 沼津商品管理センター 410-03 沼津市原2440
 0559-66-0191
 札幌営業所 062 札幌市豊平区豊平2条7丁目110-45
 011-811-5131
 伊達営業所 052 伊達市弄月町78-1
 0142-23-3638
 旭川営業所 070 旭川市神楽4条9丁目
 0166-61-6131
 浜頓別出張所 098-57 枝幸郡浜頓別町2丁目 ホクレン宗谷機械センター内
 01634-2-3177
 帯広営業所 080 帯広市東2条南15丁目
 0155-24-5988
 北見営業所 090 北見市小泉302
 0157-24-3880
 中標津営業所 086-11 標津郡中標津町西6条北2丁目
 01537-2-2624
 盛岡営業所 020-01 盛岡市みたけ2丁目4番7号
 0196-41-4811
 仙台営業所 983 仙台市福田町2丁目4-20佐正ビル内
 0222-58-7301
 関東営業所 323 小山市雨ヶ谷新田72-4
 0285-27-1515
 松本営業所 399-65 松本市大字芳川村井町高畑942-2
 0263-58-2850
 名古屋営業所 483 江南市古知野町牧森227
 05875-4-5231
 岡山営業所 700 岡山市米倉121-4保崎ビル
 0862-43-1147
 熊本営業所 862 熊本市九品寺4丁目1-22
 0963-62-2361
 宮崎営業所 885 都城市花線町14号6-2
 0986-23-0274